配布資料
以下のコレクションの資料データ（一部を見本として）のほか、長尾一雄資料から参考資料。
・高井富子コレクション
・池宮信夫コレクション
・石井満隆コレクション
・辻村和子コレクション
・副島輝人コレクション

長尾一雄（ながお・かずお）
1932 年 5 月 12 日、東京生まれ。1998（平成 10）年死去。
慶應義塾大学文学部文学科國文学（日本中世文学）専攻卒業。文学部研究科修士課程修了、博士課程単位取得退学。その後、慶應義塾高等学校教諭、慶應義塾大学講師を務む。
能、歌舞伎、舞踊などの古典芸能に接する。さらに新劇、前衛劇、モダンダンス、舞踏などにも関心を寄せる。1960 年頃より専門紙・誌や一般紙･誌に筆を執り、批評活動を開始。「三田文学」の編集に携わり、古典芸能の批評、紹介に加え、最も早く唐十郎の戯曲を活字化。土方巽らによる舞踏の創始にも関心を示し、前衛芸術をも紹介する。
著書に、『能百番』筑摩書房、1975 『能の時間』河出書房新社、1995 『現代能楽師論』能楽書林、2000（序文自筆・没後編集）

HIJIKATA Tatsumi
公開討議
土方巽 / ARCHIVE アーカイヴ

これまで8年にわたって、土方巽の命日1月 21 日には、「土方巽を語ること」を実施し恒例としてきました。本年の命日は、恒例のイベントをとりやめ、アーカイヴをめぐっての公開討議を開催します。
近年、土方巽と舞踏への問いかけが、新たな関連資料の発見や提供とともに続いています。舞踏家土方巽をより深く知るために、また舞踏と舞踏が沸騰したその時代をより広く知るためにも、新たな資料へのアクセスは不可欠です。
アーカイヴの使命は、何といっても資料の収集と公開の連続にあります。資料の収集と整理、データの作成、資料の提供といった地道な活動がアーカイヴ活動の基盤です。

本日の公開討議では、近年、アート・センターに収められている諸資料体（コレクション）を紹介しつつ、それらがアーカイヴとして成立するのかどうか、どのようなアーカイヴがありうるのか、さらに、そのための現実的で具体的な条件を問いかけることになります。
いまだ、それぞれのコレクションを十分に検証するまでには至りませんが、すでに貴重な資料が発見されていることは言を俟ちません。アーカイヴとしての問いかけは喫緊の課題であり、同時にアーカイヴのためには、将来にわたる息の長い作業と調査が必要です。
また、ダンスをはじめパフォーマンス研究にあっては、アーカイヴ・マインドを促すために、「アーカイヴとレパートリー」という考え方も採用されます。形として残る資料をアーカイヴすることとともに、形として残らない身体表現を「レパートリー」として継承する作業です。そのためには、アーティストとともに隣接するさまざまな表現や研究と協働する必要があります。
本日は、問いかけと可能性をもって、舞踏をはじめ多様な身体表現のアーカイヴをめぐって討議が成立することを望みます。

2018 年度は慶應義塾大学アート・センターにおけるアーカイヴ設置 20 周年でした。20 年前、20 世紀の終わり頃は、まだ「アーカイヴ」という用語さえ聞き慣れない時代でしたが、アート・センターは「ジェネティック・アーカイヴ・エンジン」として、アート・アーカイヴの構想を定め、土方巽アーカイヴを発足させました。アート・アーカイヴのパイオニアといっていいでしょう。
2018 年には、20 周年を記念する事業として、アーカイヴをめぐるシンポジウムを開催しました。もとより、シンポジウムの開催でアーカイヴが進展するわけではありませんが、アート・センターとしても、新たにアーカイヴ活動に取組む方向が確認されています。とはいえ、成果を見るためには困難な課題は残されたままです。
本日の公開討議は、あらためてアーカイヴの意義を見出だし、課題を明らかにしつつ、アーカイヴの展望を切り開きたいというところです。
そのためにも、参加者の皆さまのご発言、ご意見、ご提言、ご批判を切にお願いするところです。

2019 年 1 月 21 日（月）18:30-21:00
慶應義塾大学三田キャンパス　東館 5 階会議室
Monday 21 January 2019 6:30 pm – 9:00 pm
Keio University (Mita), East Research Building 5F Conference Room

発言者：池宮中夫　石井真理子　木部与巴仁　吉増剛造
Guest Speaker: Nakao IKEMIYA, Mariko ISHII, Y. KIBE, Gozo YOSHIMASU

主催：慶應義塾大学アート・センター
企画：慶應義塾大学アート・センター土方巽アーカイヴ
協力：土方巽アスベスト館、20 世紀舞踊研究会

問い合わせ：慶應義塾大学アート・センター［担当：森下］
TEL:03-5427-1621　moris@art-c.keio.ac.jp
Information: Hijikata Tatsumi Archive

KUAC-leaflet-19-12

	高井富子	池宮信夫	土方巽	石井満隆	辻村和子	副島輝人	
	1931 群馬県に生まれる	**1926** マニラに生まれる	**1928** 秋田県に生まれる	**1939** 香川県に生まれる	**1940** 青森県に生まれる	**1931** 東京都に生まれる	
			48 上京				
1950		**50-** NHKTV・ラジオ脚本 音楽舞踊新聞などに舞台批評				**51** 映画批評同人誌「シネ・エッセイ」発行	1950
	53 上京。江口・宮舞踊研究所に入所	**53** 実験工房公演参加	**53** 安藤三子舞踊研究所に入門				
	54 江口・宮舞踊団「プロメテの火」出演						
	58 東京モダンダンス公演出演・振付	**58** 20 世紀舞踊の会発足	**58** 今井重幸演出・振付・作曲で振付助手、作舞、出演	**58?** 石井漠に師事		**58** 「映画と批評の会」参加、映画批評	
		59 大野一雄公演「老人と海」台本	**59** 大野一雄公演「老人と海」舞台監督 「禁色」発表				
1960	**60** 江口・宮舞踊団公演出演	**60** 「20 世紀舞踊」刊行	**60** 初リサイタル　大野一雄ソロ				1960
		61 藤井邦彦公演「ニグロの河」台本	**62** レダの会第一回公演作・演出｜アスベスト館を拠点に活動｜二〇世紀舞踊の会「動きと映像のゼミナール」に参加				
		62 安藤哲子公演「ケッチ・ヨール街」台本	**63** 公演「あんま」		**64** 「荒野におけるアンデパンダン展」参加		
			65 公演「バラ色ダンス」	**65** 東京青年バレエ団入門			
	67 公演「形而情學」		**67** 「形而情學」演出・振付 「舞踏ジュネ」演出・振付	**67** 公演「舞踏ジュネ」（第1回リサイタル）	**67** 邦千谷に入門	**66** ジャズ誌「アワー・ジャズ」発刊	
	68 公演「まんだら屋敷」		**68** 「おじゅね抄」演出・振付｜「まんだら屋敷」演出・振付公演　公演「土方巽と日本人」	**68** 公演「おじゅね抄」			
		69 モワティエモワティエ舞踊会、 第一回舞踊批評家協会賞受賞 庄司裕「祭礼」台本	**69** 石井輝男「恐怖奇形人間」出演	**69** 公演「舞踏市　盲泥棒篇」	**69** 「本牧亭六華撰」	**69** ニュー・ジャズ・ホール開設 日本ジャズ協会発足	
1970		**70** 公演「閉店のご挨拶」作・演出	**70** 万博映画「誕生」出演	**70** 舞踊批評協会賞受賞「エクスパンデッド・アート・フェスティバル」	**70** 松澤宥「私の死」儀式｜「パーリニバーナ・パーリヤーヤ体」結成｜ PP 体公演	**70** 第1回「ポエトリー・イン・ニュージャズ」	1970
				71 渡欧、ロシア経由でロンドンへ。Mercury theater ほかで踊る	**71** 「音会」 「グローバル・アート・ビジョン」	**71** ニュー・ジャズ・ホール閉館 渋谷プルチネラに拠点。坂田明、阿部薫	
	72 長野千秋「O 氏の死者の書」出演	**72-** 舞唱セッション、ダンスレクチャー	**72** 公演「四季のための二十七晩」	**72** パリ、ハンブルクで活動	**72** 「雪の会座：山式」 「ASARAT 観覧環計画」（池田龍雄）	**72** 土方巽と会う。	
			73 公演「静かな家」	**73** パリ、ロンドン、アムステルダム	**73** 駒場アンソロジー	**73** フリージャズ大祭「インスピレーション&パワー 14」	
			74 シアター・アスベスト発足	**74** アムステルダム､デュッセルドルフ、ベルリン、ダルムシュタット、バルセロナほか	**74** 辻村和子舞・踏研究所開講	**74** 沖カルテット、日本縦断ツアー	
				75 アムステルダム、ハンブルク、ヴォルプスヴェーデ	**75** 弘前「シアター夜行館」		
			76 公演「ひとがた」「鯨線上の奥方」 シアター・アスベスト閉館	**76** ハンブルク、アムステルダム、マイユゼ		**76** 佐藤允彦のライナー・ノート	
			77 大野一雄「ラ・アルヘンチーナ頌」演出・振付｜「病める舞姫」連載（～78）	**77** ハンブルク、ケルン、デュッセルドルフ、ゲッティンゲン、ロッテルダム	**77** アーティスト・ユニオン	**77** メールス・ニュージャズ・フェスティバル初参加	
			78 パリ「間展」参加	**78** アムステルダム、グローニンゲン、コペンハーゲン、アムステルダム、ベルリンなど		**78** 阿部薫論	
				79 ハンブルク、アムステルダム、ボルドー、アーヘン、ロンドン、パリ 公演「帰ってきた自然神」帰国記念全国縦断リサイタル		**79** メールス･ニュージャズ･フェスティバル参加、「FMT」派遣	
1980		**84-** 公演「なんぱへらへら」「悲センサー」「水玉模様の犬」ほか作・演出		**80** 西南病院で舞踏療法 ゲッティンゲン、ベルリン、ジャズフェスティバル		**82** 「パンムジーク・フェスティバル 16 東京」ジャズ VS 現代音楽｜メールス･ジャズフェスティバル、舞踏家出演	1980
	85 「ひとがた」出演（前橋公演）		**85** 舞踏フェスティバル ’85 公演「東北歌舞伎計画」			**83** スタジオ２００「月例インスピレーション&パワー」	
	86 公演「形而情學其の二　蛇の目の蝶」		**86** 死去	**86** ロンドン		**84** 高柳昌行ソロ、北海道ツアー	
	87 土方巽追悼公演「病める舞姫」出演			**87** 「オリーブの三夜」		**87** 姜泰煥トリオ、日本ツアー	
				88 土方巽 3 回忌、風倉匠、小杉武久			
		89 公演「花言葉はファジー」｜葉書舞踊批評		**89** 「石舞台」参加			
1990	**98** アデレードフェスティバル「Masterkey」 「形而情學其の五　野花の露」（パリ）	**95** 死去					1990
2000	**00** 「Exile」（シドニー、上海）			**96** 「ボレロ 1996」参加、山下洋輔			2000
	07 大野一雄百歳の年　百花撩乱」出演			**97** 公演「自在」			
	08 Asia Tri Jogja2008「The Lifu of Butoh」出演（ジョグジャカルタ）			**07** 大野一雄百歳の年　百花撩乱」出演	**04** 死去	**06** メールス・ニュージャズ・フェスティバル参加（最後）	
	09 Butoh festival「The Intensity of Age」出演（ブダペスト）			**15** 「ギグメンタ 2015　舞踏市」		**14** 死去	
	11 死去			**17** 死去			